

## 放射性物質全域調査及び土壌回収作業進捗状況(平成20年6月)

実施項目		実績(6月)	予定(7月)
所内 全域 調査	1. 第1次調査	(完了)	
	2. 第2次調査	(調査対象場所の建物などが撤去されるまで 休止)	
土 壌 回 収 作 業	1. 回収計画立案	(完了)	
	2. 準備作業	作業用テントCの管理区域を拡大(6月10 日)	
	3. 回収作業	鉱石由来土壌回収場所での回収作業を継続。 作業用テントA、Bを解体撤去(6月7日完 了)。作業用テントCで精製済ウラン含有土 壌などの回収作業を再開(6月10日から)	鉱石由来土壌回収場 所での回収作業を継 続。作業用テントC で精製済ウラン含有 土壌などの回収作業 を継続
	4. 回収土壌などの保管	6月30日現在、精製済ウランを含有する土壌 などを1.5m <sup>3</sup> 角型容器で175個(注1)(200 リットルドラム缶換算1,313本)回収し、放 射性廃棄物として施設Sに2個、173個を地下 保管庫(施設N)に保管。鉱石由来のウラ ン、トリウムを含有する土壌などを1.5m <sup>3</sup> 角 型容器で714個(注1)回収しS棟に保管	
	5. 行政庁への手続き	なし	
そ の 他	1. 環境モニタリング	空間線量当量率及び空気中の放射性物質濃度 の測定。地下水の採取と分析	同左
	2. 放射性廃棄物の保管(注2) (地下保管庫)	6月30日現在、200リットルドラム缶152本、 1.5m <sup>3</sup> 角型容器2,929個、2m <sup>3</sup> 角型容器828 個、200リットルドラム缶換算で合計30,400 本を地下保管庫(施設N)に保管。なお、地 下保管庫にはNDC社が、1.5m <sup>3</sup> 角型容器で 1,180個(200リットルドラム缶換算8,850 本)を保管	

(注1) 回収作業を開始してからの累計で示す。

(注2) 「旧核燃料試験研究施設整備」のものに加えて土壌回収作業での回収土壌なども含みます。